

2021.3.17 地域共生社会の実現に向けた自治体等研修



想いを一つに、想いをカタチに!

~日向市の「地域共生社会」の実現に向けた取組報告~

社会福祉法人日向市社会福祉協議会 地域福祉課 成合進也

[本日お伝えすること]

I. はじめに…

II. 地域力強化推進事業について

III. 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

IV. 実践まとめ

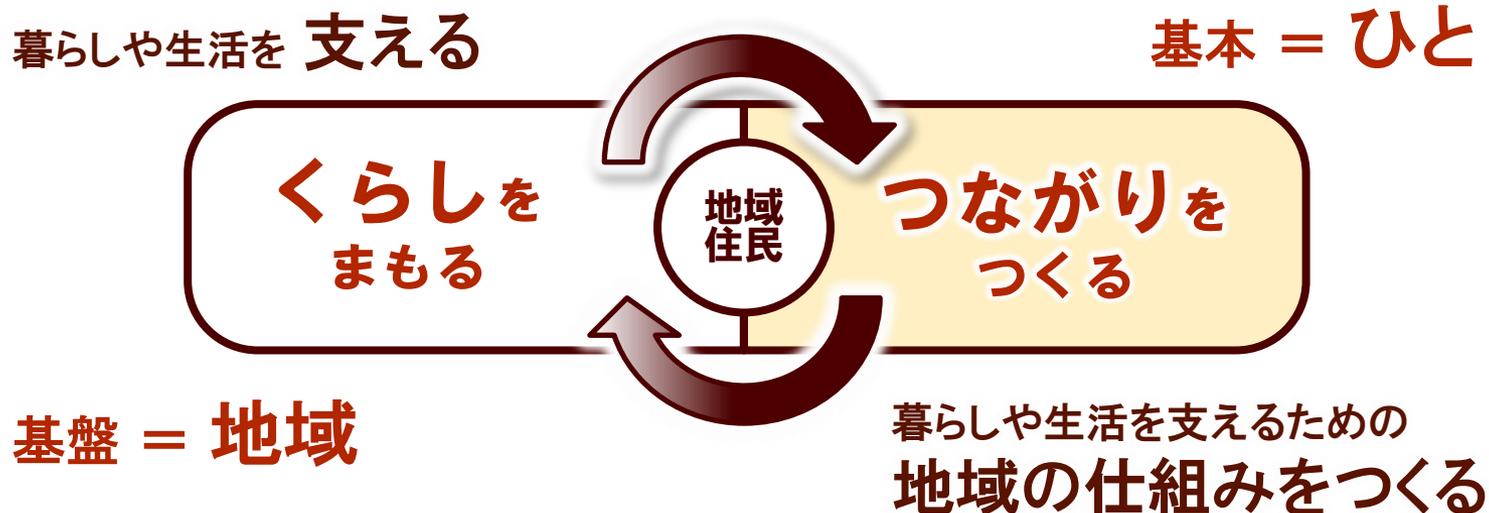
「一人ひとりが主人公、一人ひとりがサポーター」

◇一人ひとりが主人公（あらゆる生活課題への対応）

地域に暮らす住民一人ひとりが、その人らしい自立した生活をおくることができるように、地域生活課題を丸ごと受け止め、サポートする相談・生活支援体制の充実・強化を進めます。

◇一人ひとりがサポーター（地域のつながりの再構築）

地域に暮らす住民一人ひとりが、住民や地域生活に関心を持ち、暮らしの中にある個別の生活課題を「他人事ではなく我が事（自分事）」として理解し、生活課題解決のために自分たちにできることを考え、実行する住民相互のサポート体制づくりを進めます。



日向市社協活動実践のPoint A. B. C 実践

日向市社会福祉協議会が目指している実践 「全世代・全対象型地域包括支援体制構築」

社会生活支援会議

地域生活支援と福祉が一体となって
地域福祉活動に取り組むことにより、
地域生活支援が効果的に実施される。

- 1) 協議をとおして課題を明確にし、
支援の方向性を見出す。
- 2) 事例検討を通じて、職員の手帳を
アップデートする。

A : 個を地域で支える援助

C : 地域福祉の基盤づくり

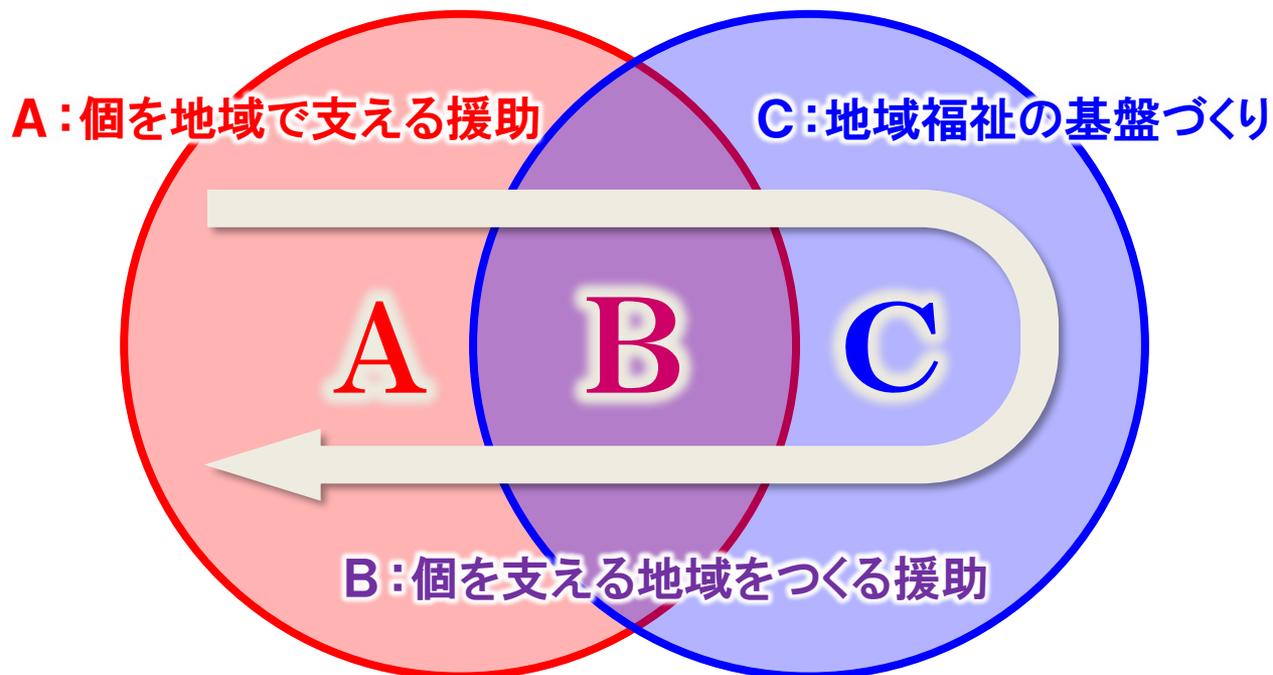
A B C

B : 個を支える地域をつくる援助

個別支援と地域支援の一体的な実践
社協活動(地域福祉)は、
ABCの領域で連動し、循環している

A+B ▶ 地域を基盤としたソーシャルワーク
B+C ▶ 地域福祉の基盤づくり

日向市社協活動実践のPoint A. B. C 実践



「地域力強化推進事業」 (平成30年度～令和2年度) **B+C**

- ▷ 地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決することができる環境の整備
- ▷ 地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備

地域力強化推進コーディネーター2名 配置

「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」 (令和元年度～令和2年度) **A+B**

- ▷ 包括的な相談支援体制の構築に向けた取り組み
- ▷ 多機関協働によるチームアプローチによる相談支援を強化

主任相談支援員1名、相談支援員1名で対応

A. B. C 実践のための主要な社協活動実践

A

1. 生活困窮者自立支援事業 (日向市生活相談・支援センター心から) 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

自立相談支援／家計相談支援／学習支援／食料支援／居場所づくり(若者等)
地域生活支援会議／多機関協働によるチームアプローチによる相談支援

日常生活自立支援／法人後見(権利擁護)・体制整備
生活福祉資金／たすけあい資金／あんしんセーフティネット

主任相談支援員 1名
相談支援員 1名

B

2. 地域力強化推進事業

地域住民からの相談対応・支援(受け止め・つなぎ・支援)
地域生活課題把握・抽出／課題解決のためのプラットフォームづくり(協議の場)
地域福祉推進基礎組織構築／福祉部設置／地域活動の拠点づくり
福祉教育(我がごと意識醸成)人材育成・組織化(地域福祉サポーター養成)
多機関・他分野による支援ネットワーク構築・強化
小地域福祉活動の支援・調整／相談支援への参画

地域力強化推進
コーディネーター2名

3. 生活支援サービス構築事業

地域住民からの相談対応・支援(受け止め・つなぎ・支援)
生活課題把握・地域実態把握／圏域別地域ケア会議／協議体企画・運営
人材育成・組織化(生活支援サポーター養成)／住民主体による生活支援サービスづくり
介護予防(いきいきサロン／百歳体操)／居場所づくり

6. 介護保険・障がい福祉サービス事業 指定管理事業

居宅介護支援
訪問介護／移動支援
配食サービス
児童館・センター・放課後児童クラブ
老人福祉センター管理運営

C

4. 認知症地域支援体制構築等推進事業

認知症地域支援体制推進会議(FIT会議／医療・福祉・地域の支援ネットワーク強化)
認知症啓発(認知症サポーター養成講座)／認証店事業／人材育成・組織化
居場所づくり(コミュニ・ティカフェ／認知症図書館／本の処方箋プロジェクト)

5. ボランティア・市民活動支援センター事業

ボランティア・市民活動支援・調整／福祉教育／ボランティア人材育成・組織化
災害ボランティア体制整備(災害支援ネットワーク構築)

Ⅱ. 地域力強化推進事業（平成30年度～令和2年度） B+C

[事業実施体制・内容]

名 称	中 央	大王谷	日知屋	財光寺	南 部	東 郷	合 計
地域力強化推進コーディネーター	1名			1名			2名
生活支援コーディネーター	1名	1名	1名	1名	1名	1名	6名
地域福祉コーディネーター ※地域担当職員(事務局内スタッフ)	3名	3名	4名	3名	3名	4名	20名

日向市内の各地域（日常生活6圏域）を担当する「地域力強化推進コーディネーター（専従者2名）」、「地域福祉コーディネーター（地域担当社協職員20名）」を配置し、「個を支える地域をつくる援助（B）」、「地域福祉の基盤づくり（C）」を軸に、個別支援、地域支援と連動して、地域の特性に合わせて事業を実施しています。

事業推進については、「生活支援サービス構築事業（生活支援コーディネーター活動）」、「生活困窮者自立支援事業（日向市生活相談・支援センター心から）」と連携・連動し、地域における各領域の地域生活課題を横断的に対応・支援する地域の相談・支援体制整備・強化を図っています。

[主な活動内容]

- ◇地域調査・診断、実態把握(地域アセスメント)
- ◇地域生活課題抽出・報告及び地域福祉情報発信
- ◇課題解決のための“支援”及び関係機関への連絡調整
- ◇地域生活支援会議の開催
- ◇住民主体による小地域福祉活動の実施及びその支援
- ◇地域福祉推進基礎組織構築(地域組織化)
- ※自治会での地域福祉部を設置するための支援・協力
- ◇小地域福祉推進会議開催(福祉部への支援・協力)
- ◇福祉教育・人財育成事業の実施(人財の組織化)
- ◇多機関・多職種による地域福祉活動実践



地域担当者会議（SAP Meeting）

1. 地域福祉推進基礎組織構築(福祉部等の設置)

日向市区長公民館長連合会と連携・協働し、各自治会単位における地域福祉を推進するための基盤整備（福祉部設置、生活支援ネットワーク構築・強化、地域の組織化）を進めています。

毎月の圏域ごとの区長会、地区民生委員児童委員定例会へ参加し、地域の実態把握及び連絡調整、生活相談・支援（個別支援）、地域福祉活動を推進するための情報提供、地域福祉活動の企画提案等を行っています。また、担当地区内で行われる地域のイベントや福祉活動、地域住民活動へ参加し、住民の“声”を直接聴き、地域の実態把握（**生活課題の把握**）に努めています。

区 分	中 央	大王谷	日知屋	財光寺	南 部	東 郷	他	合 計
福祉部設置(福祉推進員)	10	5	5	4	11	10	0	44
福祉担当者配置（福祉部設置なし） ※区長、自治会担当者、民生委員等による対応	2	0	3	3	5	0	0	13
自治会数	21	8	18	10	23	10	4	94

[我がごと意識醸成・住民の主体形成]

地域を担当するコーディネーターを中心に、地域関係者と連携し、地域住民に対する「福祉部」の役割・機能の説明、地域における住民主体の「相互の支え合いの仕組み」の必要性について理解を得る機会として、福祉教育（勉強会・研修会・座談会等）に力を入れています。

※「出会いの場」「知る場」「話す場」「考える場」▶「動く場」

地域福祉を推進するために重要な実践プロセス！

「あなたを動かす理由はなんですか？」 動く動機！

※明確な理由や目的・目標があれば動く！ 動き続ける！

[実践プロセス]

福祉教育～地域福祉実践 サイクル

地域の福祉力UP
地域共生社会実現

5. 活動分析・評価、仕組み化

活動効果検証、改善、システム化

4. 動く！ 動いて変える！

考えた「地域福祉活動」をやる！ 動くことで変化！

3. できることを考える よりよい地域生活のためにできることは？

地域の生活課題解決のためにできることを考え、組み合わせる！

2. 地域を知る・理解する 暮している地域(生活)に興味・関心を持つ！

地域の生活課題について知る。 ※「我が事」意識の醸成Point

1. 福祉について知る・学ぶ 「ふだんのくらしのしあわせ」追及

福祉について理解を深め、興味・関心を持つ！



福祉部活動をととした主体形成・活動のきっかけづくり

[亀崎中区福祉部会実践]

展開1:福祉部による地域福祉活動協議 ※目的・目標の設定・確認・共有
活動テーマ「見守り対象者の実態把握」



展開1

展開2:調査対象者の選定、訪問者の調整(チーム編成)

対象▷高齢者の一人暮らし、障がい児者



展開2

展開3:訪問調査実施、結果分析・評価

- ◇現在の見守り対象よりも潜在的なニーズを抱える世帯が多数いる。
※潜在的なニーズを抱える世帯へのアプローチが課題である
- ◇本当に見守りが必要な住民は、地域の中に潜在化している。
- ◇調査対象の高齢者は、ソーシャルサポートネットワークが構築されていた。
- ◇高齢者以外にも地域生活者として、障がい児と暮らす世帯の生活ニーズなど、地域内の多種多様な生活課題を抱える世帯がいることを知ることとなった。

住民の「つぶやき」に耳を傾け、気づき、つなぎ、受け止める地域の仕組みをより充実させるための活動が求められることを **福祉部員が実感し**、福祉部としての次の **実践目標が明確化** された。



展開3

展開4:新たな活動目標設定

目標1:**潜在的ニーズを抱える世帯に対する地域の早期発見・対応の仕組み**

- ◇班長会でのニーズ把握、地域関係者、福祉専門機関との情報共有・支援会議、住民による生活支援を実施する。
- ◇地区における生活支援プロセスを明確にし、区民に対して情報発信を行い地域全体で共通理解を深める。

目標2:**住民相互のつながりの構築**

- ◇住民相互の関係づくり(気にかけて合う関係)に取り組み、地域福祉活動への参画を推進する



展開4

「福祉部等関係者の集い」 ～福祉部の“これから”を考える集い～

福祉部等による“これまで”の地域福祉活動の現状を、福祉部等関係者が共有するとともに、“これから”の地域の実情に合わせた地域福祉活動を考える！



日時：令和2年2月18日（火）19:00～21:00
場所：日向市総合福祉センター 2階 集会室
参加：67名
内容：福祉部等活動調査結果の報告
福祉部活動の現状についての共有
課題についてのアクションプランシート作成
福祉部活動推進ネットワークの構築

「福祉部等活動調査」(R元年度調査)

福祉部等による“これまで”の地域福祉活動実情を整理・分析・評価、可視化（見える化）するとともに、“これから”の活動を考え、実践するための基礎資料とするための訪問調査を実施。

対象：福祉部設置自治体（35地区）
方法：地域担当職員による訪問聞き取り調査
内容：福祉部の組織体制について
福祉部による地域福祉活動内容について
福祉部設置による地域福祉活動の変化（効果）
福祉部活動や運営上の課題
地域の生活福祉課題（ニーズ把握）について

2. 地域福祉の担い手育成及び組織化、地域福祉活動実践

地域福祉の担い手育成として、日向市地域福祉コーディネーター連絡会と協働で「地域福祉サポーター養成講座」を実施し、講座修了者による組織化（日向市地域福祉サポーター連絡会）を図り、多機関・他分野による生活支援ネットワーク構築を進めています。



日向市地域福祉コーディネーター連絡会（通称:おせっ会）

設立:平成25年11月11日

宮崎県が地域福祉を推進するために実施した「地域福祉コーディネーター養成研修」修了者による日向市のネットワークを構築。

令和3年3月1日現在 おせっ会 会員登録 40名
(地域福祉CO養成研修修了者48名)

日向市社協職員 25名

日向市社協以外 15名 (医療機関2名/障がい福祉5名/高齢者福祉8名)



(1)地域福祉サポーター養成講座(3講座)

地域福祉コーディネーターの強み(専門分野)を活かした養成研修を企画・実施!

[地域福祉コーディネーター(おせっ会)の動き]

- ▷ 仲間を見つける! 声をかける!
- ▷ 仲間を集め、知る、考える!
- ▷ 一緒に動いて、考えをカタチにする!

H25年 65名 / H26 47名 / H27年 46名 / H28年 24名
H29年 31名 / H30 25名 / R元年 19名

2. 地域福祉の担い手育成及び組織化、地域福祉活動実践

日向市地域福祉サポーター連絡会 (通称:がむしゃら応援団)

設立:平成26年9月20日

令和3年3月1日現在 会員登録 112名

ーがむしゃら応援団が目指すものー

- ▷ “できること”で地域福祉活動を応援・支援する
- ▷ 地域の困りごと、心配ごとに気づいて、つなぐアンテナ役
- ▷ 応援・支援者としてのスキルアップと“できることアップ”
- ▷ 応援・支援を楽しみ、共に成長する



多機関・他分野の緩やかな支援ネットワークを形成

福祉分野以外の専門分野の登録 福祉専門職の限界を突破!

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 介護支援専門員 | <input type="checkbox"/> 病院勤務(事務職) |
| <input type="checkbox"/> 木材・加工販売 | <input type="checkbox"/> 農業 |
| <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 | <input type="checkbox"/> 建築設計士 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 日向市スポーツ推進員 |
| <input type="checkbox"/> 福祉推進員 | <input type="checkbox"/> 介護サービス職員 |
| <input type="checkbox"/> 会社員(営業・建設業) | <input type="checkbox"/> 日向市行政職員 |
| <input type="checkbox"/> 保育士 | <input type="checkbox"/> 高校生、大学生 |
| <input type="checkbox"/> 障がい者支援施設職員 | <input type="checkbox"/> 電気通信技師 |
| <input type="checkbox"/> 美容師 | <input type="checkbox"/> 薬剤師 |
| <input type="checkbox"/> 美容ライター | <input type="checkbox"/> システム会社 |
| <input type="checkbox"/> 福祉用具販売 | <input type="checkbox"/> 作業療法士 |

[日常生活圏域ごとの地域福祉の人財の分布]

	中央	大王谷	日知屋	財光寺	南部	東郷	市外	合計
おせっ会	8	5	8	11	3	5	0	40
がむしゃら 応援団	22	18	12	22	9	13	16	112
合計	30	23	20	33	12	18	16	152

多機関・他分野(福祉以外の専門性を有する)の生活支援の機能を有する“がむしゃら応援団”の日常生活圏域における地域福祉活動への参画を調整しています。

2. 地域福祉の担い手育成及び組織化、地域福祉活動実践

「地域福祉活動企画コンテスト！」

〔コンテスト目的〕

これまでの経験やふくしの学びを活かし、地域福祉を推進する人財としてのチカラを“発揮”するためのきっかけ及び活動プランを作り出す。

住民主体による地域福祉活動をイメージ（想像）し、地域で地域住民が地域住民を支える仕組み（地域福祉活動）を一つでも多く作り出す（創造）ことによって地域の福祉力を高める。

ふくしの人財一人ひとりのネットワークを広げ、相互の連携強化を図り、人財の“総合力”で地域福祉活動を推進する。



プレゼンテーション



やってみたい企画に投票

結果：地域福祉活動企画が **89企画** 誕生
企画を推進するための **推進チーム** 構築

※地域福祉実践の基盤強化



進行中の企画

- ◇ きづけば「ヒョイ」
- ◇ ○○地域ふくし農園
- ◇ ☆いきいき女子会☆
- ◇ ドミノで繋ぐ「きずな」プロジェクト
- ◇ 生涯現役プロジェクト！！
- ◇ 「気くばり・見守り」ご近所ウォーク
- ◇ ふくし食堂(0円食堂)
- ◇ ありがとうプロジェクト！！
- ◇ にんち避難所(えんがわ)
- ◇ じんせい寺子屋

ふくし食堂とは…

顔も名前も知らない人が出合い、
一緒に料理を作り、一緒に食べる
そして、安心できる場所。

それぞれに役割があり、
人と人がつながる場所。

つどうことで生まれる人と人とのつながり



「ふくし食堂って…」

障害があっても体は動かないけれど、
できることはある。
私の役割は味見係！

人に頼られる自分が嬉しかった。
この感覚を多くの人に感じてほしい。

私の役割はここにあるんだと、安心できる場所です。

できないことはできないと言える。
そして支え合える。
それが自然なことだと
ふくし食堂を通じて感じました。

第1回ふくし食堂 参加者で持ち寄った食材でカレー作り



第2回ふくし食堂 地域の企業にも協力「使わない食材ください！」



2016.11.28(土) 第2回ふくし食堂 35名参加



2. 地域福祉の担い手育成及び組織化、地域福祉活動実践

「地域力強化推進研修会」

[研修1]

地域住民一人ひとりのふだんのくらしをしあわせにするための協働実践の理論、方法・手段、展開について学びを深め、地域にある多様な資源がつながり、新たな支え合いのカタチ（地域福祉実践のより良い変化）を創造することを目的に開催。

日時：平成30年12月10日（月） 9:30～12:00

場所：日向市総合福祉センター2階集会室

参加：73名（地域福祉サポーター／福祉部関係者／社協関係者）

内容：講演、**模擬地域生活支援会議**（生活課題を解決するための会議を体験）



講師 大阪教育大学 教育学部教育協働学科 教授 新崎国広 氏

[研修2]

これまでの地域福祉活動実践から、地域福祉の担い手と専門職の協働実践の理論、方法・手段、展開について学びを深め、これからの地域における新たな支え合いのカタチを想像し、創造するための実践基盤を高めることを目的に開催。

日時：平成30年12月23日（日） 9:30～12:00

場所：ホテルベルフォート日向 9階 エクセルホール

参加：86名（地域福祉サポーター／地域関係者／ソーシャルワーカー等）

内容：講演、日向市実践報告、討議（グループ、全体）



講師 同志社大学 社会学部 社会福祉学科教授 上野谷加代子 氏

3. 社会福祉法人、福祉事業所等との連携

(1) 日向市社会福祉施設等連絡会との協働実践

研修「社会福祉法人等における 公益的な取り組みについての研修」

日向市における生活困窮者支援の取り組みと現状について理解
支援プロセスの共有と支援ネットワークの強化

日時:平成30年10月26日

場所:日向市総合福祉センター集会室

参加:103名(日向市社会福祉施設等連絡会、福祉行政、社協)

内容:基調説明「社会福祉法人の地域貢献と日向市の取り組み」
事例報告、グループワーク



研修「社会的排除に向き合う 社会福祉法人等の役割」

～我がごと・丸ごとの地域づくりとしての施設機能を考える～

複合的な課題を抱える人の相談支援(丸ごと支援)を理解する
丸ごと支援のための福祉専門職の連携・協働を考える

日時:令和2年1月24日

場所:日向市総合福祉センター集会室

参加:98名(日向市社会福祉施設等連絡会、福祉行政、社協)

内容:講演



講師 NPO法人ほっとプラス代表理事 藤田孝典 氏

4. 活動の拠点づくり実践

(1) コミュニティカフェ(認知症カフェ) 4ヶ所

認知症の人やその家族が安心できる地域住民の日常生活における相談支援の入りや居場所づくりの取り組みとして、4つの圏域(大王谷、美々津、財光寺、日知屋)でコミュニティカフェに取り組みました。

実施に当たっては、地域包括支援センター、民生委員児童委員、傾聴ボランティア、生活支援サポーター、認知症サポーター、住民ボランティアの協力のもと、月1回の頻度で実施しています。

地域で暮らす住民一人ひとりの心配ごとや困りごとなどの相談対応及び生活福祉課題等の初期相談を行っており、地域に暮らす住民の実態把握の場となっています。



(2) いきいきサロン 58ヶ所

高齢者の生きがいづくりや孤立感の解消、地域生活課題の把握と早期発見・対応等を目的に実施するサロン活動の運営支援をとおして、住民主体の活動拠点の強化を推進しました。

地域の民生委員児童委員やサロンボランティアを中心に月1回、公民館等で実施し、高齢者同士のつながりや地域住民、地域社会とのつながりの場として、大きな成果を上げています。



(3) 介護予防教室 82ヶ所

高齢者の運動機能向上を目的とする百歳体操の運営支援をとおして、地域における住民主体の活動拠点の整備を行いました。百歳体操を単なる運動器機能向上の目的にのみ終わらせず、百歳体操プラス1活動として、地域の特性に合わせた「組み合わせ」による複合的な地域活動の実践を進めています。

毎週1回の開催であり、地域住民からの情報(地域生活課題の把握、早期発見・対応)を得る場、生活支援に関する情報を発信する場として機能しています。



5. 地域生活課題に関する相談対応

(1) 相談対応実績(令和元年度)

① 相談件数 174件(98件)

② 相談経路

相談経路	件数
本人、家族、親族等	42(16)
地域住民、地域関係者、友人等 (福祉部関係者、生活支援サポーター、地域福祉サポーター等)	63(63)
相談支援機関、福祉施設・事業所等 (医療・介護・福祉相談機関、行政機関等)	69(19)

③ 相談内容(重複) 190件

相談内容	件数
介護や高齢者に関すること	48
障がいに関すること	17
子育て、児童に関すること	1
経済的困窮に関すること	8
認知症に関すること	29
地域福祉活動に関すること	41
民生委員児童委員に関すること	3
見守り活動に関すること	10
福祉部に関すること	3
ボランティアに関すること	10
人間関係(近隣トラブル)に関すること	4
就労支援に関すること	4
個人的な相談・悩み	5
福祉制度、施設入所に関すること	7

④ 相談対応終結 89件

相談内容	件数
課題解決	46
相談支援機関、関係機関へのつなぎ	43
その他(連絡が途絶えた等)	0

[相談支援連携機関]

- ◇行政(福祉、高齢、障がい、児童、生活保護、環境)
- ◇福祉施設・事業所、医療・介護機関
- ◇地域包括支援センター
- ◇各相談支援機関
- ◇日向市生活相談・支援センター心から
- ◇警察
- ◇日向保健所
- ◇学校教育機関
- ◇自治会関係者、福祉部等
- ◇地域福祉活動団体・グループ
- ◇生活支援サポーター
- ◇おせっ会、がむしゃら応援団
※多機関・他分野支援ネットワーク
- ◇ボランティア・市民活動センター
- ◇就労支援専門機関
- ◇民生委員児童委員
- ◇日向市社会福祉施設等連絡会
- ◇法律専門機関、弁護士

5. 地域生活課題に関する相談対応

(1) 相談対応実績(令和2年度) ※令和2年4～12月

① 相談件数 305件

② 相談経路

相談経路	件数
本人、家族、親族等	204
地域住民、地域関係者、友人等 (福祉部関係者、生活支援サポーター、地域福祉サポーター等)	64
相談支援機関、福祉施設・事業所等 (医療・介護・福祉相談機関、行政機関等)	37

③ 相談内容(重複) 320件

相談内容	件数
介護や高齢者に関すること	19
保健、医療に関すること	11
障がいに関すること	5
子育て、児童、若者支援に関すること	3
経済的困窮に関すること	6
認知症に関すること	16
地域福祉活動に関すること	64
民生委員児童委員に関すること	5
防犯、災害に関すること	2
自治会活動、福祉部に関すること	2
ボランティアに関すること	8
人間関係(近隣トラブル)に関すること	1
就労支援に関すること	1
消費者トラブル・詐欺等に関すること	2
個人的な相談・悩み、生活に関する相談	159
福祉制度、施設入所に関すること	19

④ 相談対応終結 89件

相談内容	件数
課題解決	69
相談支援機関、関係機関へのつなぎ	83
その他(連絡が途絶えた等)	1

[相談支援連携機関]

- ◇行政(福祉、高齢、障がい、児童、生活保護、環境)
- ◇福祉施設・事業所、医療・介護機関
- ◇地域包括支援センター
- ◇各相談支援機関
- ◇日向市生活相談・支援センター心から
- ◇警察、交番
- ◇日向保健所
- ◇学校教育機関
- ◇自治会関係者、福祉部等
- ◇地域福祉活動団体・グループ
- ◇生活支援サポーター
- ◇おせつ会、がむしゃら応援団
※多機関・他分野支援ネットワーク
- ◇ボランティア・市民活動センター
- ◇就労支援専門機関
- ◇民生委員児童委員
- ◇日向市社会福祉施設等連絡会
- ◇法律専門機関、弁護士
- ◇就労支援機関

[事業実施体制]

「日向市生活相談支援・センター心から」
（生活困窮者自立支援事業）

「自立支援係」



主任相談支援員

相談支援員

就労支援員

学習支援員

権利擁護・高齢者・生活相談員

「地域を基盤としたソーシャルワーク=A+B」を基本に、複合的な生活課題を抱える人(世帯)の相談に応じ、相談者が目標とする自立した生活に向け、チームアプローチによる相談支援を実施しています。

[心から相談実績] ※令和元年度、令和2年度(R2年4月～R3年1月)

区分	R元年	R2年	前年比
(1) 新規相談受付件数 (実人数)	109	306 ※ 265	+197 (2.8倍)
(2) 相談対応件数 (延べ回数)	427	1,177 ※ 427	+750 (2.75倍)

※生活福祉資金特例特例貸付相談(新型コロナ特例貸付)

生活福祉資金特例特例貸付申請受理件数 **349件**

内訳:緊急小口資金 208件 / 総合支援資金 141件

(令和2年3月25日～12月31日集計)

相談内容(主なもの)

- (1) 経済的困窮、生活資金貸付
▷債務整理、物資支給(フードバンク)
- (2) 就労相談
- (3) 医療・病院受診
▷アルコール・精神障がい、入退・退院支援
- (4) 福祉制度利用に関わる支援調整
▷制度利用申請、生活保護、障がい認定申請
- (5) 社会参加・居場所
▷社会的孤立、ひきこもり
- (6) その他
▷虐待、DV、家族間・住民のトラブル

1. 包括的な相談支援体制の構築に向けた取り組み

児童・障がい・高齢者及び生活困窮者支援等の領域ごとの相談支援機関によるネットワークを構築し、複合的な課題を抱える世帯の把握と支援プロセスについて検討（生活支援会議）を行う。

「生活支援会議」をとおして、役割分団や支援プロセスの確認、調整を図り、チームアプローチによる相談支援を実施する。



「社協相談対応」(丸ごと受け止め)

関係づくり、相談者の想いを知る
生活課題の把握・整理



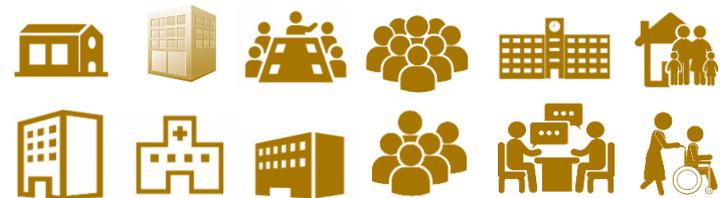
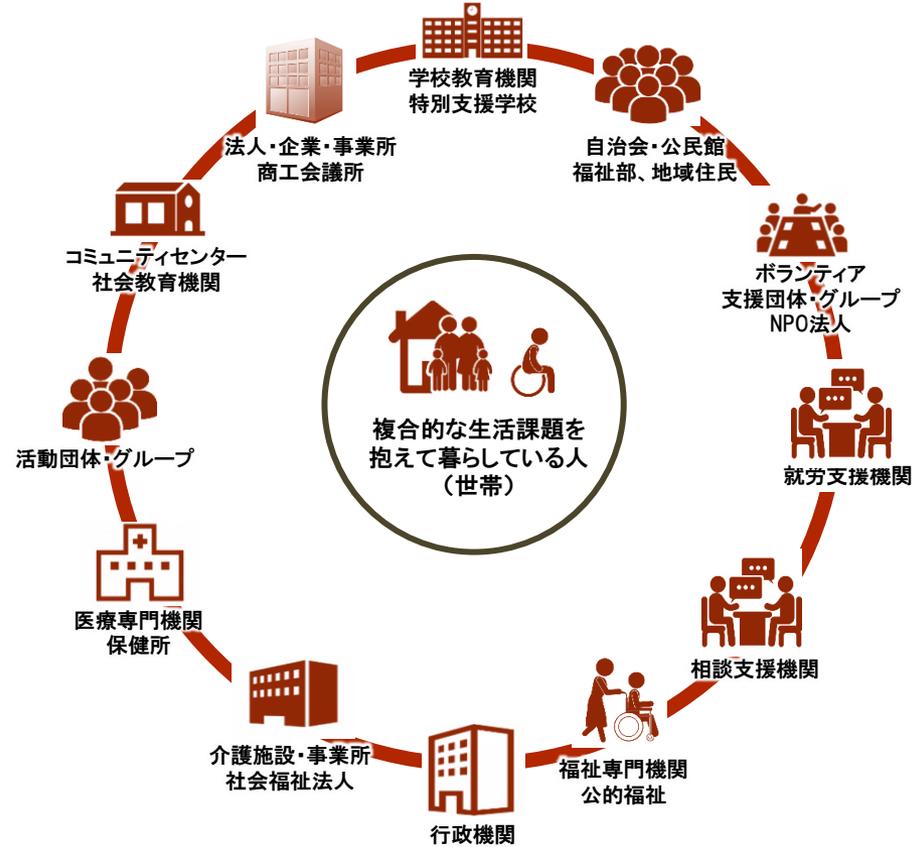
「生活支援会議」

社協内部における課題解決に向けた支援会議
支援プロセスの検討、連携・協働機関の検討
「社協にあるものは全部使う！ ないものは新たに作る！」



「生活支援会議」

課題解決のための多機関支援ネットワーク形成
支援プロセス検討・修正、結果共有、役割確認



実践をととした支援ネットワークづくり！（生活困窮者支援＋ふくし食堂＝？）

地域生活支援実践会議で検討したケース…

「お金が… 食べるものが…」

※複合的な生活課題を抱える世帯

経済的困窮／社会的孤立／不登校／虐待／就労／食糧がない…

世帯に対する支援過程において、課題解決に向けて状況が進展しない解決に向けての新たな支援の出口が…（行きづまり状態）

子どもたちが十分に食事がとれていない状況を確認

地域で支援する実践として、相談支援員が
がむしゃら応援団の企画である「ふくし食堂」を地域限定で企画提案



生活支援会議＝企画会議

相談支援員を中心に、ふくし食堂メンバー、
地域住民の力を借りて、生活支援を検討！

ー生活相談員の動きー

◇実施に向けてた企画会議実施 ※プラン立案、役割分担を確認

◇支援ネットワークを集め、頼る！お願いする！

Point:頼める、頼れる相互の関係性が… ある？ ない？

◇世帯や各関係者に対する支援調整 ※COネットワークをフル活用

◇新たなつながり構築！ ※新たな支援ネットワーク構築

◇活動内容の評価・分析

～実践目標～

◇地域のつながりを構築したい(⇒社会的孤立への対応)

◇地域で起きていることを知ってもらい、できることを考え、動く！
(⇒世帯を支える地域の仕組みづくり 排除しない地域！)



まずは…

協力店・事業所からの物資の提供

事前に“ふくし食堂”関係者が商店や事業所と調整。これまでの活動をとおして、ゆるやかなネットワークが形成されている。

だから… この事業ができる！



ふくし食堂で、
地域の大人との交流を図る

子どもたちには、家族以外の地域の関係者とのつながりを感じてもらいたい。

地域住民には、子ども達のことを知ってもらいたい…

実践をととした支援ネットワークづくり！（生活困窮者支援＋ふくし食堂＝？）



人が“つどい”同じ時間を過ごす中でお互いを知る

※福祉部関係者、自治会長・役員が“ふくし食堂”を知る

相談支援員からふくし食堂関係者に対して、
生活課題を解決するための生活支援への協力依頼

「食べ物がない」「生活が苦しい」「つながりが…」

- ⇨ 定期的なふくし食堂の実践ができないか？
地域とのつながり、そのための居場所を提供できないか？
- ⇨ 食糧・物資の提供・確保
※世帯に対する食糧・物資支援(LINE)

ふくし食堂開催後、
世帯への生活支援が継続するなか、

「今日の食べ物がない…」
「子どもの弁当が作れない…」
「生活が苦しい…」

世帯からのSOS発信

生活支援員から
ふくし食堂メンバーに対して、
緊急の生活支援協力依頼。



発信直後、メンバーから返信
「今から行きます。」
「家で作ってる野菜でいい？」
「心当たり聞いてみる！」

すぐに食材が集まり、
一時をしのげた…

ふくし食堂のネットワークが個別支援に活かされる
⇨ 多機関・多職種チームによる生活支援
ワーカーとしての葛藤。
⇨ 個人情報壁… 伝えることのリスクは…？

実践をとおした支援ネットワークづくり！（生活困窮者支援＋ふくし食堂＝？）



後日ミーティング、感想・意見

「これは単なるその場しのぎでは？」
「本当に必要な子に、親に、届いたの？」
「ふくし食堂ってそんな活動なの？」

メンバーそれぞれの **想い** がぶつかる！

メンバーの出した答えは…

「出逢ったんだから、知ったんだから
見過ごすわけにはいかない。
私たちができることをやろう！」

◇地域住民が相互に気にかける意識の醸成

住民 **「あの子どもたちはどんげしちょっとかよ～」**

▷ 今後の地域生活での見守りや支援に繋がる。 **※緊急対応**

◇自治会における動き

自治会長「自治会の活動は、障がい者でも参加しやすい活動やっちゃろうか？」

「今度の防災訓練、車いすで来てみらんけ？」

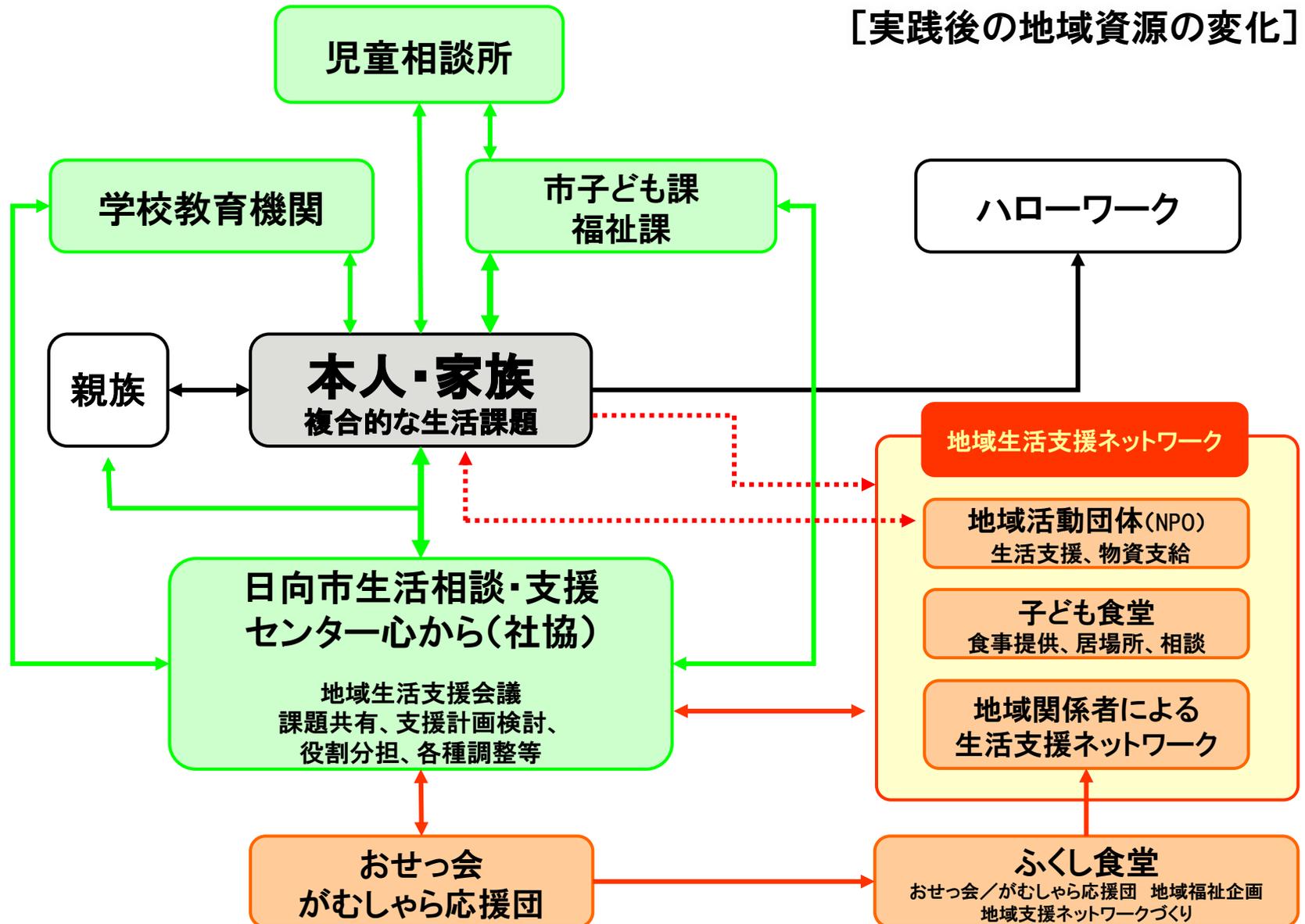
▷ 実践における出会いが、自治会の仕組みや活動を **考える(見直す)きっかけ**になる。

◇実践をとおしたメンバー相互の学びと、活動に対する意識合わせ。

「誰かの支えになるふくし食堂でありたい。もちろん、楽しみながら！」

実践をとおした支援ネットワークづくり！（生活困窮者支援＋ふくし食堂＝？）

[実践後の地域資源の変化]



今回はあの企画とコラボ!? 財光寺地区切島山一区

「まなびスペース」と



つどうことで生まれる人と人のつながり

よこちゃん&きよちゃんの

ふくし食堂

子どもから高齢者まで誰もが“集い”、共に料理を作り、共に食事をし、共に同じ時間を過ごす中で、人と人とのつながりをつくる福祉活動企画「ふくし食堂」。
今回、切島山一区の「まなびスペース」とのコラボにより実施させていただくこととなりました。食を通じて、みなさまの笑顔やたくさんの“つながり”が生まれることを楽しみにしております。

日時: **11月18日(日)** 9:00~14:00

場所: **切島山一区公民館**

持ってくるもの

エプロン

自宅にある食材を1品

メニューは当日のお楽しみ!



【ふくし食堂に関する問い合わせ】

がむしやら応援団・おせつ会 チーム「ふくし食堂」TEL: 52-2577 監督: 岡野ゆかり、五十川裕真

子どもの貧困対策・支援として 「子どもの居場所づくり」

[POINT]

- 学習支援 + ふくし食堂 = 居場所づくり
- 対象は学習支援事業参加児童・生徒
- 会場周辺(地域)の企業・商店を巻き込む
- 大学生の企画への参加
 - ⇨ 平成30年度現場実習を終えた大学生が主体的に企画に参画



地域の拠点整備

[ふくし食堂メンバー会議]

平成30年10月3日 第1回会議

参加者:9名(日程・場所・内容協議)

内 容:どこで・誰と・何をする

平成30年10月31日 第2回会議

参加者:15名(日程・場所・内容最終協議)

内 容:どこと組むか

※九州保健福祉大学 学生5名参加

平成30年11月12日 第3回会議

参加者:17名(内容確認・役割分担)

内 容:参加人数の確認

食材の確保(依頼)

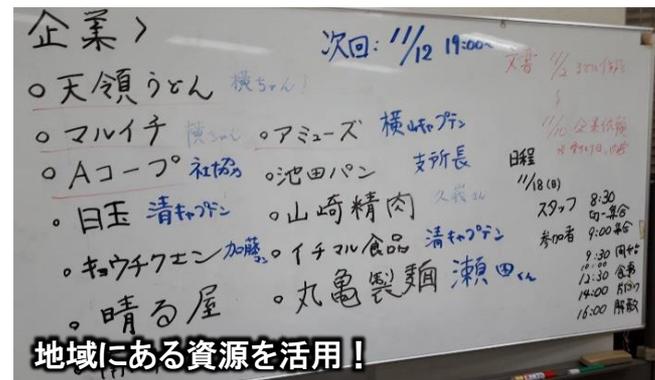
当日の流れ

学習支援事業

前日の準備、確認

平成30年11月17日 前日準備

平成30年11月18日 当日実施





地域の公民館で



がむしゃら応援団が進行



提供いただいた食材



みんなで調理



味見でお腹いっぱい



みんなで食べる



九州保健福祉大学の学生参加



大学生が児童・生徒の学習をサポート
…実は大学生も学んでいる

大学生による新たな地域実践(学習支援)



食後に子どもたちは大学生と勉強。

「勉強はいまいちわからなかったけど…
とにかく楽しかった。」

生徒 A:「70点取ったらまたきてくれますか？」

⇒自分の想いを表現

⇒大学生に来てもらうことが生徒の動機に！

大学生:「70点取ったらまた来るね」

⇒生徒との約束が、大学生の動く動機に！



最高	②	下級	③	高等	④	簡易	(9)	上級
判をしくらうにない、人格を守るため。								
エ								
オ	B	キ	C	サ	D	イ、コ	E	カ、ク
リ	G	エ、シ	H	ア	I	ケ		
ソ								
東								
	(5)					(6)		
思考・判断	資料活用	知識・理解						
12	11	56	79					

テストで、約束より9点多い点数！

「大学生に知らせてください！」

大学生による新たな地域実践(学習支援)



約束どおり公民館には学生の姿が…

「おめでとう!」「すごいなあ」

大学生から頑張りを称える言葉

大学生と再会できてうれしそうな子どもたち



子どもたちの姿から、大学生一人ひとりが
自らのかかわりの効果と喜びを実感

⇒自分たちが“できること”を実感

⇒大学生の動く動機へ 主体的な動きへ

※実践から支援プロセスを学ぶ

心理学を専攻する学生が

学びを活かしたプログラムを企画・実施

⇒やる気を引き出す心理テスト

「また来てね!」

「次は英語で70点取ります!約束です!」

大学生が学習支援員に登録

大学生による本格的な学習支援スタート

⇒まなびスペース整備・充実



A 個を地域で支える援助

複合的な課題を抱える世帯

- 生活困窮者世帯
- 一人暮らし高齢者
- 障がい者世帯
- 一人親世帯
- 経済的困窮世帯他



福祉専門職
福祉制度事業
⇒ 制度の狭間
⇒ 対応支援困難



学習支援員
学習支援ネットワーク



組織的なチームアプローチの実践

ケースワーカー

B 個を支える地域をつくる援助



地域(各自治会)に暮らす地域住民

住民相互の
支え合いの
ネットワーク



つどう
一緒に動く
話す(話せる)
聴く(聴ける)
知る(わかる)



役割
食べる
安心
つながり
...

つどうことで生まれる新たなつながり

つながりが新たなサポート体制つくる!



まなびスペースの基盤
大学生による学習支援Start



生活支援コーディネーター
地域福祉コーディネーター(地域担当)



地域(各自治会圏域)にある
企業、商店社会福祉法人、事
業所、NPOなど支援協力



他分野、多機関の協働実践



九州保健福祉大学の学生参加

C 地域福祉の基盤づくり



日向市地域福祉CO連絡会
(おせっ会設立)



地域福祉サポーター養成
(人材育成)



日向市地域福祉S連絡会
(がむしやら応援団設立)



地域福祉活動企画コンテスト
(動ききっかけづくり)



コミュニティワーカー

IV. 実践まとめ

□個別支援と地域支援の一体的な展開

地域づくりは、常に、一人のニーズからはじまる

□福祉教育機能の発揮！

人材育成、組織化、仲間づくり、協働実践のきっかけづくり、動く動機！

□ごちゃまぜの協働実践！

協働の面白さ、効果の実感、人の役に立つ喜び、新たな価値の創造
積極的な対話と実践的な学びの提供

□動く、動き続ける！

より良い変化を想定した連続性・継続性のある実践展開

□“我が事”は出会いと協働から生まれる。

実践を通して、地域生活課題に直面する場面をいかに演出できるか？

□地域資源は変化できる。柔軟に変化させる。

1つじゃ、1人じゃ限界があるけど… ○○と、○○と…

“と”の連続で可能性は無限大に広がる。 組み合わせ自由！